

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション夏の企画展

千一億光年 トンネル

2017年5月20日〔土〕— 8月6日〔日〕

浜口陽三 奥村綱雄 ネルホル 水戸部七絵



100100000000
LIGHT-YEARS TUNNEL

Yozo HAMAGUCHI, Tsunao OKUMURA,
Nerhol, Nanane MITOBE

千一億光年トンネル

ミューゼ浜口陽三・ヤマサコレクション夏の企画展
浜口陽三 | 奥村綱雄 | Nerhol | 水戸部七絵

新しい表現は、見る人に新たな世界を切り開いてくれます。浜口陽三(1909~2000)は、1950年代に手さぐりで銅版画に取り組み、独自の技法を編み出しました。それは何ヶ月もかけて銅の板を彫る手間のかかる技法でしたが、今までにない、光と闇に満ちた作風を生み、世界的な評価を得ました。この夏は、浜口陽三にちなみ、現在、未踏の表現に挑んでいる3人の作家を、浜口の銅版画20余点と共に紹介します。展覧会顧問として、生物学者で美術にも造詣の深い、福岡伸一先生に図録の評論文を書いていただく予定です。手のひらから時空を乗り越え、別次元へ昇華しようとする作品の数々をご覧ください。

奥村綱雄(おくむらつなお)は「パフォーマンスとしての刺繍」を、二十年以上続けています。あえて夜間警備の仕事に就き、勤務中の待機時間にひたすら針を動かして、小さな布に1000時間以上の作業時間をかけたむけます。これは膨大な時間の結晶か、あるいは前衛演劇なのか。7200時間をかけた不可思議な作品「夜警の刺繍」を紹介します。

Nerhol(ネルホル)は、田中義久と飯田竜太によるアーティスト・デュオです。レイヤー(層)を用いた洗練された手法で、時間や存在のゆらぎを提示します。昨年は伐採された街路樹を薄切りにして撮影し、その写真を重ね、年輪さながらに木の持つ雄大な時間と歴史を彫り出しました。今回はこのシリーズを中心に、新作も加え、静かな思索空間を展開します。

水戸部七絵(みとべななえ)は、顔をテーマに描くスケールの大きな最近注目の若手作家です。油彩絵具を時には一日100本以上を使って豪快に塗り重ね、崩れることも臆さずに匿名の顔を描きあげます。絵画として描いていますが、作品は立体さながらに盛り上がり、大胆な色彩と質感で迫ってきます。

表面キャプション(左から):

浜口陽三「アスパラガス」1957年 メゾチント 29.2×44.1cm

奥村綱雄「夜警の刺繍 ブックカバー」2016年 綿布に糸 24.8×17.5cm

Nerhol「multiple - roadside tree 004」2016年 240×300cm

水戸部七絵「FACE」2014年 油彩、木製パネル 30.0×30.0cm (参考作品)

浜口陽三 | HAMAGUCHI YOZO

1909年と歌山県生まれ 1930年東京美術学校彫塑科を退学し渡仏。油彩、水彩などを制作。1950年頃から銅版画に本格的に取り組み、1953年末よりパリを拠点に制作。1955年頃、カラーメゾチント技法を開拓。以後、サンパウロビエンナーレ、東京国際版画ビエンナーレ等で大賞を受賞。冬季サエボオリンピックのポスターに採用される。2000年逝去。

奥村綱雄 | OKUMURA Tsunao

1962年三重県生まれ 金沢美術工芸大学商業デザイン科卒業。主な個展:1995・2000年藍画廊(京橋)、2006年ギャラリーJIN(新川)。主なグループ展:2009年「Stitch by Stitch 針と糸で描くわたし」東京都庭園美術館(目黒)、2012年「小出由紀子事務所(神田)。2000—2003年 ギャラリーガイド誌「etc.」にて「日記にゃっき」コラム連載担当。

ネルホル | Nerhol

田中義久:1980年静岡県生まれ 武蔵野美術大学卒業。飯田竜太:1981年静岡県生まれ 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。2015年Foam Photography Museum(アムステルダム)、2016年金沢21世紀美術館(石川)、Yutaka Kikutake Gallery(東京)などで個展を開催し、国内外で活躍。近年の出版物に「Promenade multiple - roadside tree」などがある。

水戸部七絵 | MITOBE Nanae

神奈川県生まれ 2011年名古屋造形芸術大学造形学部洋画コース修了。主な個展:2016年「DEPTH - Dynamite Pigment -」愛知県美術館(名古屋)、ギャラリー 21+葉(自由が丘)主なグループ展:2014年「砂漠のスケッチ」BlackRockCity内テント(アメリカ)受賞歴:「熊谷守一大賞展」入賞、「千代田芸術祭2011アンデパンダン」OJUN賞。



浜口陽三「1/4のレモン」1976年
15.5×15.3cm



奥村綱雄「夜警の刺繍 制作風景」2000年
タイプCプリント
(作家によるセルフポートレート)



Nerhol「Scene to know」2013年
84.0×55.0×6.2cm (参考作品)



水戸部七絵「DEPTH」2016年
油彩、キャンバス、鉄製パネル
80.0×50.0cm (出展作品)

■出品作家によるトーク

奥村綱雄×Nerhol×水戸部七絵

聞き手:柏倉康夫(放送大学名誉教授)

日時 | 7月9日(土)15:00—16:00トーク

16:00—17:00お茶会(ご飲談と自由鑑賞の時間)

[定員] 60名

奥村綱雄×小出由紀子(インディペンデント・キュレーター)

対談「夜警の仕事・夜警の刺繍」

日時 | 6月24日(土)15:00—16:00 [定員] 30名

Nerhol×大浦 周(埼玉県立近代美術館 学芸員)

対談「積層と表層」

日時 | 6月30日(金)18:00—19:00 [定員] 30名

水戸部七絵×吉川陽一郎(造形作家)

対談「掘める絵画」

日時 | 7月29日(土)15:00—16:00 [定員] 30名

参加費:入館料+300円 申込は5月30日(火)12:00より電話にて。(先着順)

当日はトーク開始1時間前より受付。

会期 | 2017年5月20日[土]—8月6日[日]

会場 | ミューゼ浜口陽三・ヤマサコレクション1階、B1階

開館時間 | 平日11:00—17:00 / 土日祝10:00—17:00(最終入館16:30)

入館料 | 大人 600円/大学・高校生 400円/中学生以下 無料

休館日 | 月曜日(7/17は開館)、7/9(土)、7/18(火)

《ナイトミュージアム / 会期中第1・3金曜日(6/2、6/16、7/7、7/21、8/4)は20:00まで開館、最終入館19:30》

※7/9(日)はトーク開催のためご予約の方のみの入館です。※休館日、開館時間、出品作品等は都合により変更する場合があります。

※6/24(土)、7/29(土)は対談のため1階開場が鑑賞しにくくなります。

チラシデザイン:田中義久

〒103-0014

東京都中央区日本橋蛸町1-35-7

TEL:03-3665-0251 FAX:03-3665-0257

mail:musec@yamasa.com

https://www.yamasa.com/musec/

「アクセス」

東京メトロ半蔵門線「水天宮前」3番出口そば

東京メトロ日比谷線「人形町」A2出口 徒歩8分

首都高速箱崎IC浜町出口又は清洲橋出口

東京シテイエアターミナル駐車場前



Museum
Hamaguchi
Yozo
Yamasa
Collection

